

住民 協議会



1 松阪中央住民協議会 ……	100	23 花岡住民協議会 ……	122
2 幸まちづくり協議会 ……	101	24 松尾まちづくり協議会 ……	123
3 第二地区まちづくり協議会 ……	102	25 大河内地区まちづくり協議会 ……	124
4 第四地区住民協議会 ……	103	26 嬉野宇気郷住民協議会 ……	125
5 神戸まちづくり協議会 ……	104	27 中郷まちづくり協議会 ……	126
6 徳和住民協議会 ……	105	28 豊地まちづくり協議会 ……	127
7 東地区住民協議会 ……	106	29 嬉野中川まちづくり協議会 ……	128
8 朝見まちづくり協議会 ……	107	30 豊田まちづくり協議会 ……	129
9 掬水まちづくり協議会 ……	108	31 中原まちづくり協議会 ……	130
10 漕代まちづくり協議会 ……	109	32 米ノ庄住民協議会 ……	131
11 伊勢寺地区住民協議会 ……	110	33 天白まちづくり協議会 ……	132
12 阿坂まちづくり協議会 ……	111	34 鵠まちづくり協議会 ……	133
13 宇気郷住民協議会 ……	112	35 おのえ住民協議会 ……	134
14 西黒部まちづくり協議会 ……	113	36 有間野住民協議会 ……	135
15 東黒部まちづくり協議会 ……	114	37 粥見住民協議会 ……	136
16 機殿まちづくり協議会 ……	115	38 仁柿住民協議会 ……	137
17 大石地区まちづくり協議会 ……	116	39 柿野住民協議会 ……	138
18 茅広江まちづくり協議会 ……	117	40 宮前まちづくり協議会 ……	139
19 射和地区まちづくり協議会 ……	118	41 川俣地区住民協議会 ……	140
20 鈴の森住民協議会 ……	119	42 森を考える会 ……	141
21 港まちづくり協議会 ……	120	43 波瀬むらづくり協議会 ……	142
22 松ヶ崎まちづくり協議会 ……	121		

1 松阪中央住民協議会

松阪市役所、松阪駅、松坂城跡を抱える中心市街地に位置する地域です。地域史跡や松阪もめんなどの地域資源を活用して、松阪駅から松坂城跡までの散策ルートを「歩いて楽しい道」にしていきます。

また、防災訓練や交通安全街頭指導を通して「安全・安心なまちづくり」を進め、「住んでよし、訪れてよし」の地域をめざしていきます。

現状と課題

- いつ発生してもおかしくない地震の被害や風水害や火事において、地域にある避難所を地域住民が力を合わせて運営できるようにするためには、より徹底した訓練をしていくことが必要です。
- ここに住む人にとっても観光客にとっても、楽しく安全なまちになるように、地域が一体となった活動を展開することが必要です。
- 多くの観光客が訪れる松坂城跡周辺における捨て猫のふん尿被害について対策を検討していく必要があります。

地域の将来像（ビジョン）

『安全・安心なまちづくり、
歩いて楽しいまちづくり』



地域のめざす姿

(1) 安全・安心なまち 《安全安心部会》

子どもたちをはじめ、地域みんなで協力して犯罪や交通事故から守り、いつ発生してもおかしくない地震の被害や風水害や火事を最小限に止めるために、地域住民が力を合わせて安全・安心なまちづくりをします。

(2) 笑顔が絶えないまち 《健康福祉部会》

高齢者などの集える場の確保と健康づくりを進めて、笑い声が絶えないまちづくりをします。

(3) 歩いて楽しいまち 《まちづくり部会》

そこに住む人にとって安全・安心なまち、そこを訪れる人にとって歩いて楽しいまちをめざして、地域資源の発掘に取り組みます。具体的には、三珍花の発祥の地を探り当てて観光スポット化する、また地域のネットワークを活用して、古民家や名木を発掘して地域で守り育てていきます。

(4) なんでも相談できるまち 《自治部会》

地域住民が犯罪に巻き込まれないよう防犯灯の管理を行ったり、必要な情報が地域の隅々に行き渡るよう掲示板の維持管理を行います。住民にとって身近に相談できる窓口をめざします。

(5) 人と人がつながるまち 《公民館(子育て部会)》

各種の講座や行事の開催を通して、地域人材の育成、人と人のつながりづくりに努めます。

2 幸まちづくり協議会

幸地区は、市街地の中央部に位置しています。参宮街道、和歌山街道、熊野街道が通る古くからのまちなみがあり、白粉町、湊町などの地名や道標など、歴史を感じさせるものが今でも残っています。当初、地区周辺には新しい住宅地や団地ができていましたが、今は高齢化により世代交代が進み、人口は減少しています。

現状と課題

- 松阪市の中心地の一角としてにぎわいを見せたかつての商店街も、郊外に大型商業施設が増えたため客足が遠のいています。現在、商店街の活性化をめざす取組が検討されています。
- 市街地のなかでは高齢化率が高く、一人暮らし老人や高齢者世帯が増加しています。核家族化とも相まって、人々の交流や絆づくりが必要とされています。
- 非常変災時の安全確保や交通事故防止など、安心・安全なまちづくりが必要とされています。
- 高齢化にともない車の運転が困難になり、バスなどの公共交通機関も本数や交通網が十分でなく、買い物や通院など、日常生活で不自由をきたす高齢者が増えています。安心な生活ができる交通手段の確保が喫緊の課題となっています。

地域の将来像（ビジョン）

『であい・ふれあい・ささえあいのまち幸』

絆(あいさつひびく幸)、伝(歴史・文化を受け継ぐ幸)、住(健康・元気・自分らしく暮らせる幸)、安(安心・安全な幸)、活(豊かで活力あるまちをつくる幸)の5部会と広報委員会を設け、「であい・ふれあい・ささえあいのまち幸」をめざして、新しいまちづくりに励んでいます。

地域のめざす姿

(1) 人と人がつながるまち

- まちぐるみのあいさつ運動
- 高齢者いこいの広場
- 楽しい集い(幸にここサロン)

(2) 歴史と文化を受け継ぐまち

- 幸地区の歴史探訪
- 松阪三珍花の伝承育成

(3) 健康・元気・住みよいまち

- 健康ウォーキング、いきいき体操、健康料理教室、地区体育祭

(4) 安心・安全なまち

- 災害時避難マップの作成
- 幸地区自主防災隊の防災訓練
- 「ゾーン30」道づくり
- 交通手段の確保による安心なまちづくり

(5) 豊かで活力あるまち



3 第二地区まちづくり協議会

第二地区の地域は、松阪市の中心市街地の一角にあり、13の自治会の地域で構成されています。昔の参宮街道に沿った地域で、愛宕町・平生町・長月町・五十鈴町などの商業地と、春日町・茶与町・南町・挽木町・垣鼻町などの住宅地が混在しています。

現状と課題

よく言われるドーナツ化現象が当地域でも顕著にあらわれていて、子どもたちが住居を他市や市内の新しい住宅団地などに構えることにより、一人暮らし、もしくは高齢者のみの世帯が増え、高齢化率も高く、将来への大きな課題となっています。

現在、新しい商業施設の誘致や住宅の建設が逐次行われようとしており、昔ながらの商店街や高齢化が進む旧住民と、新しい商業施設や新住民との交流が今後の課題となりそうです。

地域の将来像（ビジョン）

『人にやさしい町づくりをめざして』

嬉しそうにしている人を見るのが楽しい、人が喜んで笑う声を聞くのが楽しい。

気軽に挨拶が飛び交い、ねぎらいの言葉が飛び交う、励まし合う人びとの輪があちこちに広がっている。私たちは、そういう地域づくりをめざします。



地域のめざす姿

(1) 楽しく活気あふれるまち

- 多彩なサークル活動の展開

女性が主体的に参加できる活動の推進と、引きこもりがちな男性の活動参加への取り組み。

- 気軽に参加できるスポーツ振興

スポーツ経験の少ない人でも気軽に参加できる高齢者向けの新しいスポーツの発見とスポーツクラブの結成。

(2) やさしい心のかよいあうまち

- 高齢者にやさしいまちづくり

一人暮らしの高齢者を支え合う体制づくり。高齢者が安心して集い合える場づくり。

- 高齢者と子どもたちとの心の交流

学校教育と連携した地域の高齢者と合同の地域福祉教育の推進。今の遊び、昔の遊びの交流事業の実施。

- 高齢者・児童の見守り

地域住民による「認知症見守り隊」の結成。小学校での認知症啓発事業の実施。「命のカプセル」制度の充実。

(3) 防犯・防災の整った住みよいまち

- 防犯・防災に関する組織づくり

第二地区全体での防災組織の構築、事故防止のための取り組み。

4 第四地区住民協議会

第四地区は近鉄松阪駅から東に広がり松阪港まで至っています。また国道23号と国道42号が南北に走り、官公庁の多くがこの第四地区に集中しています。

まちの状況は、商工業、そして農業とさまざまな分野の業種が混在しています。

居住地に関しては、旧来からの住宅地と新興住宅地、更にはアパート・マンションなどが立ち並び、年々広がりを見せています。

現状と課題

第四地区の人口は、約11,000人、世帯数は約4,400戸です。人口は近年増加傾向ですが、現在も微増傾向です。地区の範囲が広かつ転出者が多く、地域交流が困難な部分もあります。

川と海に囲まれた海拔0~4メートルの臨海部に立地していることから、南海トラフ地震などにかかる津波災害への対策が急務です。

また、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)として、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める活動を行っています。こういったコミュニティ・スクール活動を通じ、さまざまな場面で信頼関係を構築し、災害などあらゆる課題解決に向けての取組につなげていきます。

地域の将来像(ビジョン)

『このまちに 住んでよかった
誇れるまちに だいよん』

地域力アップ!まちぐるみの取組から信頼関係の充実「また来たくなるまち、だいよん」へ



地域のめざす姿

(1) 防災部会

「自分のいのちがまず優先」訓練を重ねてご近所が仲良く向こう三軒両隣の助け合い

(2) 交通防犯部会

ことが起こってからではおそい! 当たり前の生活を守ろう

(3) 教育部会

「地域の子どもは地域で育てる」子どもと大人で楽しいまちづくり「子どもは地域の宝物」
差別なんかさせない 授業だけでは学べない 豊かな心をはぐくむ環境を!

(4) 体育健康部会

健やかな体づくりのために、誰もが気軽に楽しくスポーツができる環境

(5) 文化部会

行事を通じて子どもから高齢者まで地域の方々がより親しみの輪を広げる

(6) 福祉部会

高齢者も障がい者も安心して暮らせるまちに あしたも笑顔で

(7) 環境部会

みんなでまちをきれいにする条例 目的の達成と促進

(8) 公民館・事務局

事業がスムーズに進行できるようサポート みんなが行事に参加したくなる環境づくり

(9) 16自治会

それぞれの部会に配属されて行事をサポートする 部会相互の連携をとる 地元住民の声を反映させる

5 神戸まちづくり協議会



阪市の中心から東南に位置し、地域の中心には金剛川が流れています。農地と住宅地があり、近くに病院やスーパー、学校などが多く、南勢地方最大規模の久保古墳もある住みやすい地域です。

神戸まちづくり協議会は、19自治会と他の各種団体の代表で構成される6部会を中心に「自分たちの地域は自分たちの手で住みよくしていこう」を掲げ、あらゆる年代が参加・参画でき共感し合える行事を実施し、人とのつながりの大切さを学び、思いやりの心を育て地域が1つにまとまり、行動できることをめざして活動しています。

現状と課題

神戸地区は昭和の高度経済成長期に団地が造成され人口が増加しましたが、現在、子が独立して親だけが残る団地が増え、また新しい団地に若い家族が集中し、地域間の年齢格差が広がっています。

南海トラフを震源とした地震の発生が想定され、津波浸水予測図では当地区にも津波被害が想定される地域があります。減災対策や食料の備蓄、防災・避難訓練の実施が必要です。

地域の将来像（ビジョン）

『安全で安心、高齢者や子どもにやさしく、お互いが助け合えるまち』

神戸地区は、田畑などの豊かな自然と居住するのに便利なまちが混在するところです。高齢化が進む中、地域住民がお互いを思いやり、犯罪のない、災害に強い、お年寄りや子どもにやさしく、隣どうしでお互いが助け合えるまちづくりを進めていきます。

地域のめざす姿

(1) 災害に負けず犯罪のない、安全・安心な子育てができるまち《防犯防災分野》

いつ発生してもおかしくない地震による被害や風水害を最小限に抑え、犯罪や交通事故から守るため、子どもからお年寄りまで地域住民が力を合わせ、安全で安心な子育てができるまちづくりを行います。

(2) 環境を守り住んでよかったと言えるまち《地域環境分野》

豊かな自然や景観の保全、ごみの減量を進め、住んでいるこのまちが好きになり住んでよかったと言えるまちづくりを行います。

(3) 人権が尊重され、笑顔で挨拶ができ仲良く助け合えるまち《教育文化分野》

地域の人と子ども・高齢者とのふれあいを大切に、人権が尊重され、人にやさしい、笑顔で挨拶ができ、住民どうしが仲良く助け合えるまちづくりを行います。

(4) 地域の人と子ども・高齢者がふれあい、住民が健康なまち《健康福祉分野》

地域の人と子どもや高齢者がふれあい、高齢者にやさしい、住民が心も体も健康なまちづくりを行います。

(5) お互いの「かお」が見えるまち《企画広報分野》

イベントや地域での出来事などを広くお知らせし、地域の中で風通しのよい、お互いのかおが見える活気あふれるまちづくりを行います。



6 徳和住民協議会

徳和地区は5,500世帯13,000人が暮らす市内でも人口規模が大きな地区です。地区内の小学校、中学校、高校はいずれも大規模校で、若い世帯も多く住んでいます。豊かな自然に恵まれ、歴史も豊かな地域であり、また商店や医院も多く、住みやすいまちです。

徳和住民協議会では「安心安全なまち徳和」を掲げ、さまざまな事業を通して徳和に暮らすひとがみんな、笑顔ですこやかにいられるまちづくりを進めています。

現状と課題

徳和は大きな地区であるが故にさまざまな課題もありますが、徳和住民協議会には多くの地域の方々が協力をしてくださり、課題解決に向けて地域で取り組むという空気ができています。本当に住民協議会に携わっていただいている方の協力はすごい力で、感謝、感謝です！一方で、設立して数年の「住民協議会」はまだまだ認知度が低く、地域をより良いものにしていくためにも、さらに地域の協力の輪を広げていくことが課題です。

地域の将来像（ビジョン）

『安全安心なまち徳和』

市内で最も児童数の多い徳和小学校の校区を住民協議会の範囲とし、中学校・高校・保育園や幼稚園などたくさんの教育施設があります。緑に包まれた農村風景が広がる中に住宅地や工業団地が点在し、通称三重高通り沿いには多くの店舗が立ち並んでいます。「安全安心なまち徳和」を実現するため、豊かな自然を生かして、暮らしや子どもの未来を守るまちづくりを進めています。

地域のめざす姿

(1) 暮らしを守るまちづくり・地域が守る子どもの未来・豊かな自然を生かしたまちづくり

普段の生活から、避難・防災対策が必要な災害時にいたるまで、地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくりを行います。また、青少年の育成に関しては、小学校との連携のもと、小学校と地域とでサポートを行っていきます。

(2) 地域の交流・ふれあいの場づくり

子どもから高齢者までさまざまな年代の交流ができる場として、サロンやスポーツ大会などさまざまなイベントを開催し、地域住民同士のつながりを創ります。

(3) 地域で進める健康づくり《健康福祉部》

高齢化・核家族化が進み、一人暮らしの高齢者が増えている中で、高齢者の健康を維持し、活力をつくり出すための取組を地域として取り組んでいきます。

7 東地区住民協議会

東地区は松阪市の中心市街地の東部に位置し、人口は約3,000人、8つの自治会がある地域です。地域内には黒部・東コミュニティバスが走り、スーパーや病院なども近隣にあり、利便性の良い場所です。愛宕川と名古屋川が地域を通っており、公共施設は東地区市民センター、第二隣保館、東保育園、児童センターがあります。

現状と課題

第一の課題は、人間関係の希薄化です。隣近所の状況が以前よりも把握できなくなってきています。

第二に、災害対策です。地区内を流れる愛宕川は降雨時の水位上昇が非常に早く、氾濫の不安が常にあります。

第三に、高齢化です。高齢者の増加により、公園・側溝などの管理への影響や、災害時の避難に不安があります。また、一人暮らし世帯も増加し、自治会役員も把握しきれていない状況もあります。

その他に、空き家の増加、交通安全、外国籍住民とのコミュニケーション問題など、さまざまな課題があります。

地域の将来像（ビジョン）

**「みんなで作ろう！
人と人をつながりのある東地区」**



地域のめざす姿

(1) 地域みんなが仲良く助け合い安心して暮らせるまち

あいさつや声かけで住民同士の和やかな関係を作っていきます。

(2) 防災・防犯に取り組むまち

愛宕川の氾濫などの自然災害や特殊詐欺などについて、住民のいのちと暮らしを守っていきます。

(3) 誰もが暮らしやすいまち

高齢者や一人暮らし世帯、子どもや子育て世帯、外国籍住民など誰もが地域の中でつながり合えるよう交流を図っていきます。

(4) 交通安全の意識を持てるまち

悲しい事故を無くすため交通ルールとマナーを守り、特に子どもの通学路の安全確保を行っていきます。

8 朝見まちづくり協議会

朝見地区は、松阪市東部に広がる平地に位置し、東に櫛田川、西に真盛川が流れ、南には県道37号、北には国道23号が走っています。この地は、櫛田川の氾濫原として形成された肥沃な土地で、平地のほとんどが水田となっています。また集落のほとんどが河川によりできた自然堤防上に位置しています。

現状と課題

- 10町の枠をこえた『あさみ』という大きな目線で考え、行動していく必要があります。
- 市街化調整区域にあって、人口の減少、特に児童数の減少と高齢化の問題と農家離れが進んでいます。
- 静かでのんびりした土地柄と穏やかな人柄。人の前に立って、よい方向に導こうという人材が育ちにくいし、自ら進んで活動に参加する方が少ないです。
- 自分が作った野菜を買ってもらい喜んでもらえることは、作る側の楽しみでもあり励みです。作る楽しみや喜びを持ち続けられるシステムづくりの必要性を感じています。
- 『あさみ』から外に向けて何が発信できるか。朝田寺の牡丹・紫陽花・朝田寺紅蓮などの花や、あさみ田楽や松阪牛肉入り味噌はんだなどの食文化、これらをどうすれば外に発信して人を集められるか。
- 一部の大規模農家と苺やキュウリなど多角経営農業をめざす農家、肉牛の肥育を主とする畜産農家のみが残り、兼業農家が減少していくことが予想されます。

地域の将来像（ビジョン）

『朝見のことをみんなで考え、お互いに支え助け合い、行動できるまち』

朝見地区は、肥沃な平地に恵まれた田園が広がる農業を主産業とする地域で住民の人柄ものんびりして穏やかです。このすばらしい環境を守りながら、これからの将来にみあったように、地区の人々全員で地区の全体のことを考え、安心・安全で心豊かな地区になるようにお互いに協力をしあいながら取り組んでいかなければいけません。

地域のめざす姿

- (1) 世代を越えた地域の人たちが助け合い、支え合うやさしい社会の実現。
- (2) 風水害や地震などの災害から地域の住民が、力を合わせて安全・安心のまちをつくる。
- (3) 地域の自然環境を大切にして美しい景観のまちをつくる。
- (4) 地域の主産業の農業を守り、いきいきと働ける場、環境を整える。
- (5) 地域のすばらしい人材を育て、次の世代に引き継いでいく。
- (6) 地域の伝統や文化を大切にして継承をしていく。



9 掃水まちづくり協議会

松阪市の東部に位置し、櫛田川下流域の左岸に位置する水田地帯と南西部にはなだらかな丘陵があり、市街地近郊にありながら比較的緑に囲まれた地域です。生活基盤としては掃水小学校、近鉄櫛田駅、金融機関、郵便局、スーパーマーケット、駐在所があり、県道37号（鳥羽松阪線）などアクセスも良いため利便性は高く住環境は良い地域です。

現状と課題

中学生以上全員を対象としたアンケートを実施、「満足度・重要度」、「どんなまちにしたいか」および自由意見の集計結果を検討し、次の項目を重点に地域の課題として検討することとなりました。

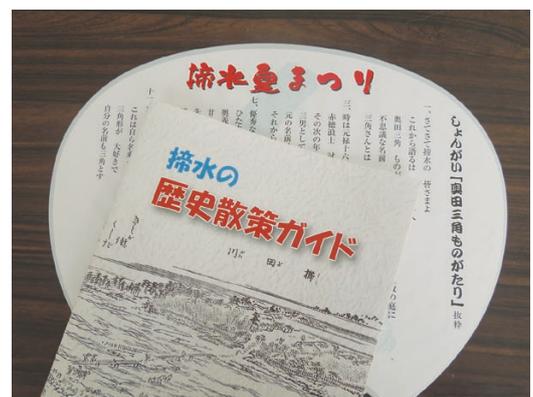
- 自然環境にめぐまれたまちづくり
- 医療・保健・福祉施設が充実したまちづくり
- 高齢者・障がい者などの弱者が住みよいまちづくり
- 教育・学習・スポーツ施設が充実したまちづくり
- 安全防災機能が充実した、安心・安全なまちづくり
- 若い世代が住みよいまちづくり

地域の将来像（ビジョン）

『みんなで創る 元気で仲良く 楽しいまち』

地域のめざす姿

- (1) 美しい自然と環境に取り組むまち
- (2) みんなが助け合い、健康でいきいきと暮らせるまち
- (3) 交流や学びを活発に 伝統文化を伝承するまち
- (4) 安全で安心して暮らせるまち



10 漕代まちづくり協議会

漕代地区は、櫛田川、祓川に囲まれた三角州の突端で、松阪市の最東部に位置しています。櫛田川の清流は松阪市の水源地となっており、支流の祓川は、一部を除き堤防が無く、漕代地区では河畔林に覆われた珍しい川で、全国湿地500選のひとつとなっており、淡水魚、貝類、蛭や野鳥の宝庫となっています。また漕代地区は、地区全体が市街化調整区域となっており、歴史的には斎王宮の隣接地として、また伊勢への要衝の地として古くから栄えました。

現状と課題

- 防災学習会の開催や集落から避難所までの経路を子ども目線での点検や機能診断が必要です。
- 高齢者が急激に増え福祉タクシーの実現や若者がこの地に居続けるため子育て支援が必要です。また公共下水道はおろか上水道すら不十分でインフラ整備を進める必要があります。
- 櫛田川および祓川の環境保全、農業と農村環境の維持管理、および資源向上のための活動や歴史ロマンの掘り起こしとして伊勢物語の童話づくりを企画したいです。
- 女性の参画と交流を進めたいです。また和食が世界遺産となり「米どころ漕代」から高齢化社会を健康で楽しいものにするというメッセージを発信したいです。

地域の将来像（ビジョン）

『漕代みんなが、笑顔で支えあい、助け合えるまち』

地域のめざす姿

- (1) 安全で、安心できるまち
- (2) 暮らしやすいまち
- (3) 美しいまち
- (4) 人権尊重のまち





伊勢寺地区は、松阪駅から西北西に数kmの地域で、堀坂山観音岳の麓にあり、地区内には伊勢自動車道松阪インターチェンジがあり、近畿・中京地区への交通の便は良く、自動車における松阪市の玄関となっています。地区内には伊勢寺町・岩内町・八重田町・深長町・野村町・殿村町・日丘町の7町があり約1,140戸を有する集落です。

松阪市の西側丘陵地で農業地帯ですが、河川は堀坂川・岩内川・風呂屋川の3河川しか無いため、岩内池・天神池・又刈池・平林池・十一池・向側池・八重田池・野村西沖池・ざる池など農業用水池をたくさん擁している地域です。そして、地区内には田畑が広がり、静かにゆっくり時間の流れる住みやすいまちです。

現状と課題

- 防災意識や安全安心に対する危機管理意識が低いです。
- 不法投棄など地区外からの環境汚染に弱いです。また、ペットの糞の不始末などマナーが良くないです。
- 地域から近い所にスーパーやショッピングモールがあり、地区内の商店や施設を利用する人が少ないです。
- 放課後児童クラブが地区内になく、子どもを預かってくれる所がない。また、不審者情報も度々あり、安心して子どもたちだけで遊ばせることができません。
- 公共交通機関が代替バスだけで、利用者も限られており本数も少ないです。
- 通学路に十分な幅が確保されておらず、危険な状態です。
- 生産年齢人口が大きく減少し、65歳以上の高齢者が増加して、少子高齢化の地域になってきています。



地域の将来像（ビジョン）

**地域全体で互いに支えあい助け合いながら
みんながいつまでも幸せに暮らせるまち**

地域のめざす姿

(1) 豊かな自然環境を守り続けるまち《環境保全部門》

豊かな自然や景観を守り、美しいまちづくりを継続します。

(2) 未来ある子どもたちの豊かな心を育むまち《教育文化部門》

「子どもは地域の宝」という気持ちで地域住民一人ひとりが見守り育てる意識を持ちます。

(3) 安心して暮らせるまち、災害に負けないまち《防犯防災部門》

地域みんなで協力して犯罪や交通事故から身を守り、地震や風水害に対する危機管理意識を高め、地域住民が力を合わせて安全・安心なまちづくりを行います。

(4) 高齢者にやさしいまち、誰もが健康に暮らせるまち《健康福祉部門》

高齢者などの集える場所の確保と健康づくりを推進し、明るく楽しいまちづくりをします。

(5) 地域の交流やふれあいの場のあるまち《地域振興分野・公民館部門》

地域交流の場である行事開催時に商品や参加賞として地域振興券を発行し、住民のふれあいを促進、地域の活性化に努めます。

12 阿坂まちづくり協議会

阿坂地区は、松阪市の中山間部に位置し、白米城を背に豊かな田園地帯が広がり、高台からは遠くは伊勢湾を一望、夜景も綺麗に見ることができます。周りは田園に囲まれた自然がいっぱいの農村地域です。特産品としては、松阪赤菜、菜花の栽培やおいしい阿坂米が穫れる地域です。

また、歴史的な神社・仏閣・史跡が多く存在し、小阿坂地区では阿射加神社・景得寺、大阿坂地区では阿射加神社・白米城・浄眼寺、美濃田地区では敏太神社・美濃田大仏・正善寺・真楽寺・源陽寺、小野地区では向山古墳・無量寺などがあり、県内はもちろん他県からも多くの人を訪れる歴史的観光地として知られています。

現状と課題

- 遠くから見ても美しい阿坂の景色となるよう、まちなみを整える必要があります。
- 子どもを増やす方策と人口減少、高齢者への環境整備が必要です。
- 米処の地であるが、米価低迷と農業従事者の高齢化および後継者不足が問題となりつつあるため、やりがいのある農業をめざすことができる環境づくりが必要です。
- 農業用ため池を多数保有する阿坂地区において、近い将来起こり得る「南海地震」に起因する池の決壊対策は必須で、有事に即応できる体制づくりが必要です。
- 道幅が狭く交通事故の危険性が高い県道丹生寺一志線において、高齢者や子どもたちが交通事故から身を守るための安全対策を講じる必要があります。
- 防犯灯の少ない通学路や多数の神社・仏閣・森林が存在する中で子どもたちを犯罪から守るための対策を講じる必要があります。
- さらなる歴史的文化を継承した事業の取組と名所PRの対策を講じる必要があります。
- 数ある歴史的文化財の研究成果を地域内外の住民に広く知らしめる必要があります。
- 地域住民すべてが参加・交流できる行事の開催が必要です。
- 高齢者人口の増加、年少人口の減少と過疎化が進行する中、高齢者が安心して暮らすことができるまちづくりの対策が必要です。
- 地域の宝である子どもたちに対し、健康に育つための食育を積極的に行う必要があります。
- 安心して子どもを育てることができる環境づくりが必要です。
- 住民協議会行事の広報活動において、地区の行事などローカルな話題もPRしていく必要があります。

地域の将来像（ビジョン）

従来の施策に加え、農業対策、高齢者福祉対策、子育て支援にも積極的に取り組み、恒久的に安心して暮らせ、子どもたちの笑い声が絶えない豊かなまちづくりに取り組みます。

地域のめざす姿

- (1) 地域の声に耳を傾け、多くの住民が参加できるまちづくり《生活環境部会》
- (2) 地域の安全・安心を図り、住みよい環境を造るまちづくり《防災防犯部会》
- (3) 世代を超えた交流と、伝統ある行事・文化財を守り発展させる《教育文化部会》
- (4) 地域の福祉向上を図り、健康で明るく、人に優しいまちづくり《健康福祉部会》
- (5) 地域の活動状況を発信して内外ともに広報するまちづくり《広報部会》

13 宇気郷住民協議会

大阪市の中央部にあたる宇気郷地区は、柚原町、与原町、後山町、飯福田町の4町からなっており、東側は伊勢寺地区に、西側は飯南地域に、南側は大河内地区に、北側は嬉野地域に接した中山間地域です。

現状と課題

宇気郷地区の人口は、昭和35年ごろまでは1,200人を超えていましたが、その後木材価格の急激な下落と若年層の流出が進み、平成に入る頃には500人を切るまでになりました。その後も人口減少に歯止めがかからず、高齢化率も伸び続け、現在では70%に迫る勢いとなっています。そんな中で、住み慣れたこの地で安心・安全に暮らし続けるためには、買い物や通院が不自由なく行えることが必要です。企業や医師会などとのつながりを大切にし、現在稼働中のシステムが末永く続いていくことに地域を挙げて取り組んでいかなくてはなりません。

また、茶畑などの耕作放棄地が多くみられるようになった現在、地域の風土を生かした取組を行う産業振興が必要であり、移住者の定着も含め、増え続ける空き家対策と合わせた包括的な施策が必要となっています。

近年増加してきた獣害の被害も、数年間に渡り住民により設置された防護柵が功を成したが、増え続ける新しい形の被害も想定し、今後も取組の継続が必要です。



地域の将来像（ビジョン）

**安心して暮らせる地域 住んでいて良かった地域
誇りが持てるまち……をめざして!!**

すべての施策の基本に「福祉の視点」を!!

地域のめざす姿

(1) 自然・農地を生かした産業振興

獣害を完全にシャットアウトした農地の特性を生かした住民および通い従事者による有機農法の振興を図ります。

(2) 無農薬茶の生産拡大を図る

茶畑の耕作放棄地対策として平成26年度より開始した「お茶畑のオーナー制度」の拡大定着を図ります。

(3) 田舎名物の特産品の販売促進・開発を図る

既存の特産品の販売促進を支援し、さらに地域全体で「新商品の開発」に努めます。

(4) 「堀坂山の家」の利活用を図る

高齢者などの憩いの「場」作りの「高齢者カフェ」を開設します。

(5) 自然の良さ・特性を生かした行事の定着

「飯福田寺音楽祭」や「もくれん撮影会」などの定着に努めます。

(6) 「昆虫の里」の取組の継続

平成24年度より取組を始め、多くの子どもたちを受け入れてきたが、今後もさらなる充実を行い継続します。

(7) 移住・定住者の定着

「住める家の確保」「飲み水の確保」各自治会などとの連携による「空き家の確保」「状況の把握」に取り組みます。

(8) 村づくりの基幹産業を育てる

昭和30年頃まで存在した「鍛冶屋」の復活、豊富な材を利用した「竹かご屋」「木材製品製作所」を作ります。



14 西黒部まちづくり協議会

松阪市の東部に位置し、櫛田川河口に広がる田畑に囲まれた地域で、河口には、日本でも有数の干潟があり、はまぼう群生地など自然と共存できるすばらしい地域です。高須町には、サッカーグラウンドやグラウンドゴルフ場などの施設があり、松名瀬町には、市内唯一の海水浴場もあり、潮干狩りも盛んで、県内はもちろん他県からも多くの人を訪れる観光地として知られています。

現状と課題

- 行事内容に変化がなく、参加する人が限られています。
- 地域の文化や歴史に詳しい人が少なくなっています。伝統ある行事を計画的に伝えることが少なくなっている意識で取り組む必要があります。(しよんがい踊りなど)
- 伝承遊びも消えかけている傾向にあり、復活させたいです。(凧作り、こま回し、竹馬遊びなど)
- 健康花見大会を老人会の方々が中心になり行っていますが、参加する子どもたちが少ないです。
- 伝承の場を作る必要があり、関心を持つ場をどのように作るかが課題となっています。
- 若い世代の地域との交流、行事への参加が少ないです。
- 子どもたちが遊べる安全な広場が少ないです。

地域の将来像（ビジョン）

『みんなが安全で安心して暮らせる西黒部』

西黒部は、海岸平野に田園風景が広がり、櫛田川河口には干潟がある自然豊かな地域です。自然を利用したレクリエーション地区があり、このような地域の特性を生かし、地域住民が共同して子どもたちを豊かに育み「みんなが安全で安心して暮らせる西黒部」に取り組みます。

地域のめざす姿

- (1) 安全・安心のための地域防災活動
- (2) 自然環境を守る美しいまちづくり
- (3) 情報の伝達ができるまち
- (4) 子どもと高齢者が健康で楽しく暮らせるまち
- (5) 世代を超えたコミュニケーションができるまち



15 東黒部まちづくり協議会

東黒部地区は、松阪市の東端で、地区の東は明和町、西は櫛田川に接し、中央を東西に国道23号、南北に二級河川中ノ川が流れ、南は機殿地区、北は万葉集にも歌われた吹ヶ井浦（東黒部海岸）を望む田園地帯にあります。また当地区には、神服織機殿神社（下館）があります。

現状と課題

- 桜まつり、納涼盆踊り大会について事業内容の検討が必要です。
- 配食サービスを行うにあたり、配食を受ける方の選定方法、配達時の留守宅の対処方法の検討が必要です。
- 長寿を謳える集いの開催や、高齢者の方々に楽しい時間を過ごしてもらうための催し物の選定が求められています。
- 公民館教室活動への参加者増の取組および招へい講師の再考を行う必要があります。
- 体育祭および軽スポーツ大会における競技内容の検討や文化祭における地域の方々への作品および出展物のお願いをしていく必要があります。
- 草刈りの際、中ノ川堤防右岸の「はまぼう・あじさい」の樹木の剪定整備を行う必要があります。
- 健康づくりについて、老若男女が参加できるイベントを開催することが必要です。
- 防災避難訓練参加者が全人口の1/3程度であり、防災講習、ことぶき学級、AED取扱講習など各1回程度なので講習開催と参加者を増やす必要があります。
- 各地区の消火栓の取扱やアマチュア無線機情報伝達訓練および取扱の習熟、防災備蓄用品の見直しに取り組む必要があります。
- 地域の魅力ある老人会の活性化と入会勧誘、地区任意団体「東黒部まとかた会」への地域の方々への勧誘が課題です。
- 東黒部地区でも60歳以上の方が増え今後も高齢化率が高まっていくと考えられます。まちづくり協議会の各部会においてもそれを踏まえた事業を展開し、開催にあたっては参加しやすい環境づくりや広報活動を実践していく必要があります。

地域の将来像（ビジョン）

『 地域住民が支えあい、助けあい、
住みよいまちづくり 』



地域のめざす姿

- (1) ふれあいとうるおいのある、健康と福祉のまちづくり。
- (2) 公民館委員と各クラブと小学校・PTA役員・楽童保護者会・まとかた会らが組織し地区行事に取り組んでいく。
- (3) 地域の健康で豊かな、自然環境・生活環境を整備する。
- (4) 地域の清掃美化、道路・堤防の草刈りなどを行い自然を守る。
- (5) 安全で安心して暮らせる地域社会をめざし防災防犯に努める。

16 機殿まちづくり協議会

松阪市の最東部に位置し、櫛田川と祓川に挟まれ整備された田園地帯にあります。
太古より伊勢神宮と関わりが深く、歴史と文化に恵まれた自然豊かな心癒される「まち」です。

現状と課題

- 地域を知る古老が少なくなり、歴史や文化が若いものに受け継がれてきていません。
- 子どもたちが遊ぶ安全な広場が少なく、若い世代の地域との関係が希薄になっています。
- 水害や津波の時、子どもや高齢者たちが安心して避難できる高台や建物がありません。
- 堤防間にかかっていない橋があり、増水時には道路が寸断します。
- 地元の人へ地元の作物の良さなどがあまり伝わっていません。

地域の将来像（ビジョン）

『人が優しいまち！ 人にも優しいまち！！
これが「は・た・ど・の」です。』

誰もが安全、安心で快適に暮らせるまちづくり、地域の特徴を活かしたレクリエーション施設やインフラ整備、そして地域住民が協同して子どもたちを豊かに育み、お互いが支え合う環境づくりをめざします。

地域のめざす姿

- (1) 地域の歴史と文化を継承できるまち
- (2) 豊かなふれあいがあり支えあえるまち
- (3) 自然環境を守り美しいまち
- (4) 安全と安心を考えることができるまち
- (5) 農業を守り食の文化を楽しむまち



17 大石地区まちづくり協議会

当地区は、国道166号の沿線に立地し、近年都市化した小片野町を中心に、両端に六呂木町、大石町が並ぶ中山間地域にあります。櫛田川の左岸、白猪山のふもとに位置し、自然環境にも恵まれた暮らしやすい地域です。

観光面では、天然記念物のムカデ蘭や、約300年も前から続く八朔祭など、弘仁3(812)年に弘法大師空海が開いた石勝山金常寺不動院(通称「大石不動院」)を中心とした数多くの見所があります。また、国道166号に沿って山裾や山中を通る旧和歌山街道は、環境庁、三重県によって近畿自然歩道として指定され、ウォーキングコースや観光資源として期待されます。

大石地区まちづくり協議会は、自治会など地域の各種団体などで構成される4部会を中心に活動を行い、特に地域の女性を中心に結成される「大石こまち」は、「地域住民の健康促進・認知症予防として笑顔のたえない明るい大石地区」「寝たきりゼロの大石地区」をめざして「元気アップ教室」を開催し、大きな成果を上げています。

現状と課題

近年、当地区は、価値観の多様化による近所つきあいの希薄化、少子高齢化の進行による過疎化などが進んでいます。こういった中で地域住民のニーズに応えサービス提供を行うためには、住民の視点からの主体的なまちづくりが必要です。また、役員の高齢化もあり、次の担い手発掘も急務となっています。

さらに、まちづくり協議会の認知度も薄いことから周知徹底に工夫が必要であり、それにも増して、地域の老若男女を問わず参加してもらえ、人材の育成につながる魅力的な活動の実践が重要となっています。



地域の将来像(ビジョン)

『安全・安心で笑顔あふれるまち、大石』

大石地区は山と川との間に広がる田園風景が素晴らしい自然豊かな地域です。このような地域の特性を生かして、子どもたちを豊かに育み、高齢者に対する尊敬の念を持った考えを持つ行動をし一体となって安全・安心で笑顔あふれるまち、大石に取り組んでいきます。

地域のめざす姿

(1) 子どもから高齢者までが元気で、寝たきり老人のいないまち

老若男女問わず、元気に声を掛け合い助け合えるまちづくりをめざすとともに、認知症予防を進め、いきいきとした明るい健康づくりをめざします。

(2) 安全・安心な地域防災活動のできる防災意識が高いまち

いつ起こるか分からない地震・災害の被害を最小限に抑えられるように隣近所力を合わせ協力し合えるまちづくりに取り組みます。地域住民が詐欺などの被害に巻きこまれないように、住民一体となって守れるまちづくりをめざします。

(3) 交通事故の無い住みよいまち

子どもから高齢者まで地域みんなで交通ルールを守り交通事故の無いまちづくりをめざします。普段から交通安全を意識し合える環境づくりに取り組んでいきます。

(4) 自然環境を守り、自然豊かなまち

環境汚染に留意し、緑や花がいっぱいあふれ、訪れた人を魅了できるような美しく自然豊かなまちづくりに取り組みます。

18 茅広江まちづくり協議会

茅広江地区は松阪市の南部に位置し、櫛田川の左岸にして、山あり川あり田畑あり、茶畑も広がっており、新緑や紅葉の美しい中山間地域です。上茅原、下茅原、広瀬の3区からなる茅広江地区は、元は飯高郡茅原村・広瀬村・下出江村・上出江村のそれぞれ一字ずつをとって命名されました。



現状と課題

昭和41年の茅原小学校廃校以来、別々の小・中学校に通学しています。また、就労場所が少なく若者が地域を離れ、高齢者の単身世帯も増えています。少子高齢化が進み、さらに地域内で校区が分かれたため、地域住民のつながりが徐々に少なくなっています。

農林業においても、従事者の高齢化や若者の関心が希薄であり、管理が追い付かない山林・田畑が荒廃しています。また、山が近いため獣害が多く、地域の農業に影響を与えています。

大石と射和を結ぶ幹線で、多気のシャープなど企業への通勤経路でもある県道700号は地域の主要道ですが、カーブが多く見通しの悪い所もあり、日常的な歩行にも危険を感じることがあります。また、公共交通機関として路線バスがありますが、交通の利便性に欠ける部分があります。

地域の将来像（ビジョン）

『自然を生かし ふれあい 支え合い 安心してくらするまち』

茅広江地区は櫛田川沿いに田園風景が広がり、山・川・田畑のある自然豊かな地域です。子育て環境は保育園1園しかありませんが、このような自然を生かして老若男女がふれあい支え合うことで、子どもたちを育て、健康でいつまでも安心してくらするまちづくりに取り組みます。

地域のめざす姿

(1) みんなに優しいまち・健康づくりを進めるまち《健康福祉分野》

自分や家族の健康に不安を感じる方が多い中、家族や地域を巻き込み世代間を超えた健康づくりを進めていきます。また、高齢者から子どもまで住みやすい、福祉の充実したまちづくりを進めていきます。

(2) 環境を守り、安心してくらするまち《環境・安全防災分野》

山や川の自然を大切に、いつまでも地域の環境を守る風土を作っていきます。また、中山間地域の特徴を生かし、地域と行政が一体となった環境保全活動を展開していきます。さらに防災・防犯活動が活発で安心してくらするまちづくりをめざします。

(3) 地域の自然・産業・文化を生かすまち《地域振興分野》

地域の自然や特産品を生かしたまちづくりを進めます。また、古くから伝わる祭りの伝承と新しい風を入れたイベントを開催することで、地域の交流を進めていきます。

(4) みんなで学び育て合うまち《教育文化分野》

生涯教育を進め地域の再発見に努め、世代を超えた交流を生み出すことで地域内での子育てを支援するなど、ともに学ぶまちづくりをめざします。また高齢者が世の中の情報から取り残されることがないしくみを考えていきます。

19 射和地区まちづくり協議会

射和地区は、櫛田川の下流左岸に位置し、伊勢自動車道とJR紀勢本線との間の区域にあります。

現在豪商として知られる松阪商人の先駆けとなったのは、江戸時代初期から江戸や京都・大阪に店を出して成功をおさめた射和商人であり、射和地区で盛んであった軽紡製造業により生産された伊勢白粉とともに木綿を全国で扱い、重用されました。豪商の邸宅の大部分は時代の流れとともに姿を消していきましたが、まちなみを歩くとき往時の繁栄を偲ぶ建物などが今もなお残っています。

現状と課題

地区内で実施したアンケートで約3割の住民が『自然の豊かさに恵まれている』と回答するように、射和地区は山や川など自然に恵まれた地域です。しかし、近年山林や田畑の荒廃が目立ち、少子高齢化や核家族化、また労働力の担い手となる若者の不足なども加わって、商工・農業などの存続や、子育て・教育、独居高齢者の見守り、交通の不便さ、文化遺産などの継承、大規模災害時の防災または防犯対策など課題が出てきています。

地域の将来像（ビジョン）

『伝統文化と自然環境に恵まれた町「いざわ」』

先人たちから受け継いできた伝統文化や自然豊かな環境のあるまちに、子どもから高齢者まで笑顔があふれ、安心していきいきと元気に暮らせるまちをめざし、私たちは住民の力でその良さを次の世代に引き継いでいきます。

地域のめざす姿

(1) 自然環境にやさしいまち

ふるさとの美しい山や川、田園風景を残し、恵まれた自然環境により情緒の豊かさを育みます。また、地産地消の推進で地域農産品、地域の商工業の利用を図ります。

(2) 笑顔あふれるまち

笑顔であいさつのできる人・まちをめざした取組や、声掛け運動により向こう三軒両隣(遠くの親戚より近くの他人)が助け合える取組を進めます。子どもや高齢者、障がい者の方たちへの思いやりがあり、いじめ・虐待の無いすべての人が暮らしやすいまちを創ります。

(3) 安全・安心のまち

子どもたちも親・地域住民もともに育つ環境づくりや、危険個所の点検整備と各家庭における防犯意識の向上や、空き家の防犯・防災対策を実施します。

(4) 災害に強いまち

地震や集中豪雨・土砂崩れ・河川の氾濫など、大規模災害に対する防災・共助体制の整備と防災意識の向上を図ります。災害時の避難、誘導先の明確化と誘導路の整備、確保をします。

(5) 歴史文化のまち

先人よりの文化遺産・景観・祭りなどを次世代に継承するための、まちの再発見や知識の向上、語り部の育成、人との触れ合いの場づくりなどの取組を進めます。



20 鈴の森住民協議会

旧松阪市の中心市街地に隣接する地域で、住宅地を中心に田畑が広がる地区を有し、地域内には幼稚園、保育園をはじめとして中学校区が異なる2つの小学校があります。また、鈴の森公園や図書館などの公共施設や大型商業施設、医療施設があり、バス路線として、三重交通の路線および「鈴の音バス」、「三雲松阪線」が地域内を通過しており、近鉄「松ヶ崎駅」もあり、とても生活しやすい地域です。

現状と課題

住民アンケート調査の結果、家族構成は、親と子どもの2世代が最も多く、次に夫婦のみの世帯が続きます。借家より持家が多く、10年以上この地域に住み続けている方が多いようで、多数の方が、この地域に愛着を持っています。生活のしやすい地域ですが、防犯・防災の体制の不備や人とのつながりが不十分だと感じている方が多いようです。この地域がより魅力的な地域になるためには、災害に備えた安全安心なまちづくり、高齢者への見守り活動、健康づくりの推進、世代間交流の推進が必要であるとの回答が多くありました。

地域の将来像（ビジョン）

『子どもから高齢者までが健康で、地域で守られながら、災害に備えがあり、犯罪がない安全で安心して暮らせる住みやすいまち』

地域のめざす姿

「地域の将来像（ビジョン）」に近づけるよう、以下の事に取り組みます。

- 災害対策・・・震災や風水害に対する体制や施設などの整備
- 防犯対策（交通安全）・・・交通事故や空き巣など犯罪に対する対策
- 健康づくり・・・健康で生活していけるような対策
- 地域内の交流・・・あいさつができ、いつも声をかけあえる関係の構築、イベントへの参加・協力
- 美化対策・・・ペットの糞尿の放置対策、ごみの分別回収の徹底
- 地域福祉の向上・・・敬老事業など、高齢者の見守り活動の推進、地域福祉計画の推進
- 人材の育成・・・研修会への参加、鈴の森住民協議会運営を通じて人材育成を推進



21 港まちづくり協議会

大阪市の海岸部に位置し、地区内には阪内川が流れ、伊勢湾では、古くから漁業が盛んであり、田畑に囲まれた自然と共存できるすばらしい地域です。

現状と課題

協議会は、大塚町・久保田町・大平尾町・新松ヶ島町・町平尾町・船江町（船江町団地北）・狹師町の範囲で構成されており、地域振興部会・安全防災部会・環境福祉部会の3つの部会があり、それぞれの部会で、世代間の交流と親睦を目的に、うなぎつかみ大会などの事業、防災意識の高揚を目的に、防災訓練などの事業、地域の福祉・環境美化運動などを実施して地域の皆さんが身近な課題を自主的に解決し、地域の個性を生かして、活動を行っています。

課題としては、港地区では、海岸部に加えて阪内川、百々川の付近にも隣接した住宅があり、ここ近年では幸いにも大規模災害などがなかったため、これまで実施してきた防災訓練、避難訓練の参加者が少ない状況です。防災に対する低い意識を改善し、地域が一体となった活動を展開することが必要です。

地域の将来像（ビジョン）

『安全・安心で住みよい ふれあいのあるまち』

地域の住民などが身近な課題を自主的に解決し、地域の個性を生かして、地域住民がお互いに支え合って、恒久的に安全で安心で住んでいてよかったと思えるまちづくりに取り組みます。

地域のめざす姿

(1) 世代間を超えた交流・連携、地域の発展と情報が伝達できるまち 《地域振興部会》

イベント事業などを開催し、世代を超えた交流を生み出し、コミュニケーションの活発なまちづくりをします。



(2) 安全・安心な地域防災活動のできるまち 《安全防災部会》

地域みんなで協力して犯罪や交通事故から守り、いつ発生してもおかしくない地震などの被害や風水害を最小限に防ぐために、地域住民が力を合わせて安全・安心なまちづくりをします。

(3) 環境を守る美しいまち 《環境福祉部会》

豊かな自然や景観の保全やごみの減量を進め美しいまちづくりをします。

(4) 高齢者などが健康で愉しく過ごせるまち 《環境福祉部会》

高齢者だけの世帯が多くなっていく中、ひとり暮らしでも安心して暮らせる環境を進めるまちづくりをします。

22 松ヶ崎まちづくり協議会

この地域は、漁業、農業を中心とした自然豊かな地域です。漁業では恵まれた海での青のり、アサリ漁業を中心に、明治から現在まで続く定置網漁業も行われています。農業ではトマト、ハウレンソウ、小松菜を栽培するビニールハウス群が立ち並び季節の野菜を栽培しています。

歴史的には、三重県史跡松ヶ島城跡があり、市外県外からの歴史ファンの来訪があります。また、現在の舟入（松ヶ崎小学校付近）に、紀州藩の御船蔵が紀州藩主の参勤交代時の重要な拠点として活用されました。また、参宮街道六軒茶屋は、多くの伊勢参りの旅人が往来し、今も三渡橋のたもとに建つ大きな常夜灯が往時を偲ばせています。

現状と課題

高齢化と人口減少の歯止め、津波などの自然災害対策の強化が課題です。

地域の将来像（ビジョン）

『人と人とのつながりを大切にするまち “松ヶ崎” 』

「祖父母・父母・子・孫」が、いつまでも一緒に暮らせるまちづくりを確かな歩みで実現させなければなりません。そのための最大の要因は住みよいまちづくりです。実現に向けて「一人ひとりの役割」「地域の役割」「行政の役割」を理解しつつ、一人ひとりの知恵と行動をエネルギーに、人々が真に求める“まち”を創造します。

地域のめざす姿

「地域の将来像（ビジョン）」に近づけるよう、以下の事に取り組みます。

(1) 老若男女が楽しく暮らせるまち

- 松ヶ崎に住んでいることを誇れる心（気持ち）の育成
- 「祖父母、父母、子、孫」が一緒に暮らせる生活空間の整備
- 思いやる気持ちが通うまちづくりで仲良い隣近所の関係づくり

(2) 安心して住めるまち

- 災害に負けない環境整備と助け合う良好な人間関係の構築
- 子どもを見守り育てる人づくり

(3) 日々の楽しみが実感できるまち

- みんなで集い楽しむ場の提供（行事・イベントの開催）と参加促進



23 花岡住民協議会

本協議会は32の自治会で構成され、人口2万人を超える松阪市で一番大きな協議会となっています。また、この地は、船形埴輪で脚光を浴びた宝塚古墳をはじめ、本居宣長翁の奥墓など、数多くの遺跡が点在し、文化と歴史が息づく地域でもあります。

現状と課題

当地域は国道42号と国道166号の幹線道路が通り交通量も非常に多いところです。特に朝夕の通勤・帰宅の時間帯は渋滞が日常化しています。一方で、まちなかの旧道は狭く交通事情も悪くなっており、また公共交通機関の便が悪いため、自家用車に頼らざるを得ない状況が、さらに交通事情を悪化させています。

また住民環境は、旧のまちなみが残る区域と新興住宅地が広がる区域に二分され、旧のまちなみが残る地域や昭和の経済復興の時期に開発が進んだ地域では、他に変わらず高齢化が進んでいます。

それとともに年代層の違いや生活環境の違いで、地域間や人的なつながりが希薄化しつつあります。人が集まれば多種多様な考えが広がるとともに、自己中心的な考えが善悪の判断を歪め、公共物を破壊するなど、モラルの低下も今日的な課題となっています。

地域の将来像（ビジョン）

『人がふれあい 地域がつながるまち 花岡』

核家族化が進むにつれ、生活様式も家族主体へと変化する中、豊かな心を養ったり、生きがいのある生活設計を創造したりすることに弱さが生じてきています。

しかし、これらは生きる力として、培っていかねばならない事柄の1つです。そのためには、私たち一人ひとりが日々の生活の中でさまざまな環境に目を向け、何事にも積極的に働きかけ、活用する能力を養う必要があります。

このことを踏まえ、人がふれあい 地域がつながるまちづくりを推進し、地域の将来に夢や希望がもてる環境づくりや人間づくりに努めています。

地域のめざす姿

(1) 世代を越え心の結び合うまち

レクリエーション事業

(2) 思いやり 気配り 命を尊ぶ心豊かなまち

福祉ふれあい事業 健康講座

(3) 安全・安心 みんなが明るく暮らせるまち

防災訓練(自助、共助) 防犯パトロール 子育て事業

(4) 緑のある環境にやさしいまち

環境保全事業



24 松尾まちづくり協議会

松尾地区は松阪市の西部に位置し、市街地と中山間地域に囲まれた阪内川沿いに広がる9町(10自治会)からなり、田畑に囲まれ自然と住宅地が共存できる地域です。また地域内にはスポーツ施設などが充実しており、立野町には中部台運動公園・野球場・テニスコート・芝生広場、また園内には、みえこどもの城、大足町には武道館・野球場・ゲートボール場・テニスコートがあります。

現状と課題

- 青少年を取り巻く生活環境の大きな変化の中で、深夜の青少年の夜遊びが増加傾向にあるため、子どもたちが犯罪に巻き込まれないような対策を講じる必要があります。
- 新清掃工場の稼働により、地域内の3路線(国道166号・県道辻原西町線・同松阪久居線)の交通量が増加し、交通事故のリスクが高まっています。対策として、歩車道の完全分離を講じるよう関係機関に強く働きかけていく必要があります。
- 当地区は昭和57年に阪内川の堤防が決壊し氾濫しました。その後、河川改修が進み川幅も広がりましたが、近年のゲリラ豪雨などにも注意が必要です。過去の災害を風化させないよう防災訓練などを通して防災意識の高揚に努め、地域が一体となった活動の展開が肝要です。
- 少子高齢化の加速が進み、この10年間で当地区の年少人口比率は6.3ポイント減に対し、高齢者人口比率は4.3ポイント増加しています。そこで、高齢者・シニア層が交通機関を利用し、自由に出かけることができ、健康で楽しく魅力あるまちづくりを進める必要があります。
- 核家族化により、世代間の交流の機会が減少しつつある中、自然・歴史・文化の継承や多彩な行事を通じて、世代間を越えたコミュニケーションが図れる地域づくりを進めます。

地域の将来像(ビジョン)

みんなが安全で安心して暮らせるまち



地域のめざす姿

(1) 安全・安心な地域防災活動のできるまち《防災防犯部門》

地域のみんなでパトロールを行うなど犯罪や交通事故を抑制し、また地震や風水害の被害を最小限に防ぐために、地域住民が力を合わせて安全安心なまちづくりを進めます。

(2) 高齢者などが健康で愉しく過ごせるまち《健康福祉部門》

耕作放棄地を活用するなど、高齢者やシニア層が活躍できる場の確保と健康づくりを推進し、日本一健康なまちづくりを進めます。

(3) 世代を越えたコミュニケーションのできるまち《生活・文化部門》

生涯教育を推進し、世代を越えた交流によりコミュニケーションが活発になるまちづくりを進めます。イベントや地域行事を通して、時代の変化に対応した人材育成と人材確保のため、組織や事業などのあり方を検証し、自主財源の確保に努めます。

(4) 自然環境を守り美しいまち《環境エコ部門》

自然豊かな景観の保全を進めるとともに、ごみの堆肥化や分別の徹底により、ごみの減量化を進める運動を展開します。また、地域には自然とマッチした花の絶えない美しいまちづくりを進めます。

地域住民が連携して不法投棄を許さないまちづくりを進めます。

25 大河内地区まちづくり協議会

大河内地区は松阪市の阪内川の中山間部に位置し、東西に和歌山街道（現在は国道166号）が縦走しています。上流部は西に白猪山、北に堀坂山があり、その山麓に阪内町・辻原町・勢津町・矢津町・中流部は大河内町・笹川町・桂瀬町が広がり、総面積は13.4km²で山林は8.2km²、農地は2.7km²で、森林が61.2%を占めています。

四季を通じて緑豊かな山並みに囲まれ、春には桜、秋には紅葉、ヤマユリなど四季折々の彩りに移る自然を有し、農林業を中心とした長閑な地域です。

現状と課題

- 里山や阪内川沿岸部の環境美化の一環として清掃活動を行い、景観の保全と美化に努めていますが、里山の荒廃が止まらず、不法投棄も後を絶ちません。
- 森林は専業従事者の高齢化や後継者不足により荒廃林地が多く、土砂災害など治山への影響が危惧される状況です。一部の地域では企業と連携した保全活動が始まっています。
- 農地においても後継者不足から休耕田や耕作放棄地が増えており、景観の保全面から大きな課題となっています。一部の地域ではヒマワリなどの植栽による景観の保全活動が始まっています。
- 都市部や市街地への人の流出などにより過疎化が進み平成26年の総人口は平成元年と比較し、21%の減少、特に20歳以下の人口においては57%の減少に至っています。一方で、60歳以上の人口は47%増加し、少子高齢化が顕著となっています。
- 集落内の河川や水路の整備が遅れ、風水害などによる氾濫や山地の崩壊などの災害が発生しています。
- 生活必需品などを扱う小売店が少なく、高齢者の日常生活に支障をきたしています。
- 空き家の増加とともに、老朽化・倒壊の危険、景観の悪化など大きな課題となっています。
- 県・市の文化財として5カ所指定されていますが、郷土史を生かし観光資源を活用して情報発信と交流を図る必要があります。
- 風水害や地震災害からいのちと財産を守るため、地域の実状に応じた被害を想定して災害の知識・災害への備え・避難や救助の行動の周知を図り、被災者ゼロをめざした活動を行う必要があります。
- 青少年や児童そして高齢者を犯罪や被害から守るために、啓発活動や声かけ、見守りに一層の活動が必要となっています。
- 交通事故ゼロをめざして、交通安全標語による啓発など一層の活動が必要となっています。

地域の将来像（ビジョン）

みんなが「集い・支え合い・紡ぐ」地域力

地域のめざす姿

- (1) 自然環境を大切にする「まち」
- (2) 生活環境を大切にする「まち」
- (3) 文化・歴史と学習を大切にする「まち」
- (4) 「日々防災」の生活習慣が定着した「まち」
- (5) 犯罪のない「まち」
- (6) 交通事故ゼロの「まち」
- (7) 健康管理とスポーツ活動に盛んな「まち」
- (8) 福祉に携わる人が多い「まち」
- (9) 集いと絆を大切にする「まち」
- (10) 男性・女性・世代間を通して活動する人が多い「まち」



26 嬉野宇気郷住民協議会

嬉野宇気郷地区は、中村川の上流部に位置し、嬉野管内で最西端の静かな山里です。市内で最も高齢化率が高く、小原自治会と上小川自治会で84世帯、143名(平成29年1月1日現在)が暮らしています。昭和57年には、台風の大被害で数名の犠牲者を出した経験があります。

豊かな自然が自慢のこの地区は、展望台が整備されている「髯山」をはじめ、肥前滝や冷谷不動滝など観光資源もあり、初夏には、市の花である「ヤマユリ」が白い大輪の花をつけ、中村川とその支流で、鮎やあまごなどの釣りが楽しめます。自然に親しみ、地区を元気にするために、平成7年から「宇気郷まつり」が行われてきました。

現状と課題

嬉野宇気郷地区の大きな問題は人口減少で、ここ10年で73名も減っています。人口減少とともに、過疎高齢化が進み、生活環境、自然環境の劣化が課題です。生活に不可欠の給水も、井戸水、谷水のままです。農協や店がなくなり、食料や生活用品を求めることも不便で、医療機関が遠いことも心配です。念願のコミュニティバスが通るようになりましたが、買い物や診療には1日かかりです。急な病気や怪我にも、すぐ対応できません。わずかな田畑も、獣害で困っています。山も荒れてきており、屋敷の木々、雑草の手入れもままなりません。「ヤマユリ」も保存の対策が必要です。自然を守り、生活を営んでいくためには、私たちが助け合い、支え合っていくことが必要ですが、どうしても行政支援をお願いしなくてはなりません。

人口減少の中、この地区に転入される方や家族も増えています。いままでの地域行事ができなくなったり、自身の生活で精一杯だったりしますが、改めてお互い様の関係づくりを深め、みんなでまちづくりを進めていく必要があります。

地域の将来像（ビジョン）

『自然を享受し、元気で穏やかに暮らせるまち』

人口減少、高齢化は止められませんが、豊かな自然の中で生まれ育った私たち、この地を終の棲家にした私たちは、愛すべきふるさとです。ふるさとの自然を守り、将来に引き継いでいくことが私たちの役目です。人も自然も、ここの生活も、そして将来も、あるがままに受け入れ、楽しむことのできる地域にします。不便な地でも、暮らしやすくなるよう協力し、仲良く、元気で穏やかに笑って過ごせるまちにします。

地域のめざす姿

住民協議会の2つの部会、〈地域安全部会〉〈地域元気部会〉で、めざす姿に取り組んでいきます。

- (1) 支え合って暮らしやすいまち
- (2) 安全で安心して暮らせるまち
- (3) 笑顔と会話でつながるまち
- (4) 自然環境を生かし、守るまち
- (5) 健康づくりと生きがいづくりを楽しむまち



27 中郷まちづくり協議会

中郷地区は、松阪市の北西部の山間地域に位置し、中村川に沿って住居が立ち並ぶ、水と空気がきれいなまちです。この地区には、恵まれた自然環境と、先人たちが築いてきた歴史があり、代表的なものとしては、平家の里（日川地区）、天白縄文遺跡（釜生田地区）など往事の面影をとどめる史跡に出会うことができます。

現状と課題

課題 ～高齢化の進展、遊休農地の増加～

- 過疎化と高齢化が進展している中郷地区は、住民が1,000人程の規模で、かつ住民の半分以上が60歳以上と今後も高齢化が進むと思われます。
- 中郷地区は、若者の地域離れにより、人口減少に歯止めがかからない状況です。
- 中郷地区の農地は、担い手不足のため、遊休農地が徐々に拡大しつつあります。

地域の将来像（ビジョン）

『福祉の充実、農地を活用して
元気を出す地域』



地域のめざす姿

(1) みんなが安全で、安心して暮らせるまち

中郷地区の自然を生かした行事を行うことにより、高齢者と若者が、子どもたちを豊かに育み、お互いが支え合って、恒久的に安全、安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

(2) 宅老所活動と遊休農地の活用の両面から「満足度日本一」のまち

高齢者福祉の充実により満足度日本一をめざします。
柚子を使って遊休農地を活用し、元気を出す地域にします。

28 豊地まちづくり協議会

白米城を南に仰ぎ、清流中村川が育んだ肥沃な土地に水田が広がり、畑地では果樹、野菜などが生産されています。豊地地内には一志嬉野インターチェンジ、嬉野パーキングエリア、ゴルフ場があり、このインターを利用して県内外から多くの方が訪れています。また、薬師寺（嬉野一志町）には、薬師如来立像（国指定重要文化財）が安置されており、ご開帳（12年に一度）が行われています。八田城（嬉野八田町・市指定史跡）は、地域の方の手によって里山公園として活用、保存されています。

現状と課題

- 元気を育む（地域振興分野）
豊かな自然に恵まれているものの、外部からの人の出入りは少なく活気に乏しいです。情報発信の内容や方法を充実させ、人々の交流の場をつくり、豊地の良さを地域内外の人々に知ってもらう必要があります。
- 絆をつくる（福祉・健康推進分野）
少子高齢化の中、自治会内での交流は図られていますが、全体的な結びつきが不十分です。誰もが安心して楽しく暮していくために人々の交流の機会を増やし、絆を深めることが大切で、長く住み続けたいと思えるまちづくりが必要です。
- 自然を生かす（文化教育・環境分野）
米を中心とした農業生産物はありますが、従事者不足や獣害による荒廃も進んでいます。人々の創意工夫で環境保全と地域再生に努めるとともに、歴史・文化についても学ぶ事業を取り入れていくことも求められます。
- 安全・安心に暮らす（福祉・防災・防災分野）
「おおきんバス」運行により高齢者への利便性は高まっていますが、運行ルート・回数は一層の充実が求められています。人々を災害、事故、犯罪者から守り安全・安心に暮らせるまちづくりのために、防災訓練、通学路歩道整備、防犯灯の十分な設置が必要です。

地域の将来像（ビジョン）

『人と自然が豊かに育むところ 豊地』

豊かな土壌と自然の恵み、いにしえより続く豊かな文化、そこに暮らす者の豊かな心。その豊地の誉を脈々と受け継いできた私たちのふるさと豊地。「豊地まちづくり協議会」は誰もが健やかに安心して暮らすことのできる「豊地」の実現をめざしていきます。

地域のめざす姿

(1) 元気を育む

- 豊地情報発信基地をつくろう
- 次世代にむけた人材育成、確保
- 「スマイル豊地推進運動」の実施
- 自主財源の確保

(2) 絆をつくる

- 高齢者支援事業の実施
- 宅老所の充実と高齢者の見守り
- 心も体も元気に健康推進事業

(3) 自然を生かす

- 世代をつなぐ「豊地を学ぶ」事業
- 豊地の風土体感事業
- 文化財を活用したまちづくり
- 中村川ウォーキングロードの整備
- 「豊地祭り」の開催

(4) 安全・安心に暮らす

- 子ども安全・見守り事業
- 防犯灯設置事業
- 防災に備えた取組



29 嬉野中川まちづくり協議会

嬉野中川地区は、雲出川、中村川の下流域にあって肥沃な土地が広がる地域で、松阪市の北東部に位置しています。また、中川地区の西方の天花寺地区を中心とした地域は歴史的な資産が多く分布しています。

幹線の県道が、地域を東西方向と南北方向に走っていて、朝夕の時間帯には車の量が多くなります。

近年、近鉄伊勢中川駅周辺に、通勤などの交通の利便性などから人口が急増し、新しい住居環境ができてきています。中川地区の人口は9,862人(平成28年7月1日現在)です。また、中川地区には、小学校、幼稚園・保育園、公民館などの教育施設、老人養護施設や介護施設などの福祉施設やスーパーなどの商業施設も充実してきています。

現状と課題

- まちづくり協議会では、たよりなどで事業の案内などを地域住民に周知して、恒例の事業を展開して、多くの人がある事業に参加していますが、参加する年齢層に偏りがあります。周知の仕方や事業内容の固定化などが要因の1つになっていると考えられます。
- 絶えず事業ごとに多くの人からの声を聴き、それを元に評価をし、次回以降の事業に反映させていくことが必要です。多くの人があるまちづくりの事業に参加・参画してよかったと実感してもらえるものにしていかなければならないと考えます。

地域の将来像 (ビジョン)

『それぞれの地区特性を活かし、
コミュニケーションのある元気な明るいまち』

地域のめざす姿

- (1) 地域の発展と情報共有を図っていくまち
事業例:「情報の共有化と広報」「人材の発掘と育成」など
- (2) 健康維持・福祉向上をめざしていくまち
事業例:「軽スポーツの普及」「健康相談」など
- (3) 環境保全・環境美化をすすめていくまち
事業例:「環境の保全」「地域美化運動」
- (4) 安全・安心な暮らしができるまち
事業例:「命を守る防犯防災講座」「交通安全の推進」など
- (5) 青少年の健全育成をすすめ、文化活動を推しすすめていくまち
事業例:「青少年健全育成の推進」「生涯学習の充実」など



「未来の中川」最優秀作品

30 豊田まちづくり協議会

豊田地区は、松阪市の北部、雲出川の南岸に位置し、田畑に囲まれた農業を中心とした地区で、農業について研究している県の施設や嬉野の公共施設が集中して建てられています。また、前方後方墳の西山古墳もあり、特徴的な古墳文化をもつ地域です。

伝統行事として、松阪市無形民俗文化財の「新屋庄(にわのしょう)かんこ踊り」があり、頭に赤熊(しゃぐま)と呼ばれる黒の鶏の羽根の被り物をつけ、両手にバチを持ち、鞆鼓(和太鼓)を胸に吊るして踊ります。

現状と課題

地域の産業は、農業を中心とした地区ですが後継者が少なく、委託生産が急増しています。世帯の高齢化にともない、空き家や高齢者だけの家も増えており、耕作放棄地や、里山・竹林は荒れ放題のところも多くなっています。

また、地域住民の近隣関係も徐々に変化しているため、世代間の交流や地域の元気づくり事業などを行って地域住民間の交流を支援しています。

環境問題として、中勢バイパスやグリーンロードが通っていることもあり、年々交通量も増え、子どもたちの交通事故が心配され、歩道設置が急がれます。

その他、近くに1級河川「雲出川」が流れ、地盤が低い地区もあり、南海トラフを震源とする津波の心配が懸念されます。

地域の将来像 (ビジョン)

『公共施設を活用した文化あふれるまちづくり』

『住民が健康で生活できるまちづくり』

『福祉充実を考えたまちづくり』

『地域の特産物や遺跡文化を発信してたくさんの方が訪れるまちづくり』

地域のめざす姿

(1) 地域の発展と情報が伝達できるまち

- 「くすのき通信」(広報誌)の発行
- 次世代の人材育成と確保

(2) 高齢者が健康で愉しく過ごせるまち

- 高齢者の場づくりと元気づくり事業を行う
- 環境美化と環境教育を目的に清掃活動を行う

(3) 体を動かし健康づくりと地域の絆づくりを図るまち

- 体力づくり事業
- 地域交流と健康づくり事業

(4) 安全・安心な地域防災活動のできるまち

- 子ども見守り事業
- 防災訓練事業

(5) 世代間を越えた交流・連携ができるまち

- あいさつ運動
- 文化祭事業



31 中原まちづくり協議会

「中原」は、地名のとおり伊勢平野の真ん中に位置し、田園風景の広がる農業が盛んな地区です。日本一おいしいと自慢の嬉野大根をはじめ、なばなやブロッコリー、イチゴなど、ハウス栽培も含め野菜などが数多く生産されています。また、農業にはかせない水を確保するため、古くからため池などが造られ、黒野地区を中心に数多く残っています。算所の三つ池は、地域の憩いの場にもなっています。

伝統行事としては、津屋城の「でこさん」があります。300年続くこの行事は、作物が不作であったその昔、お代官さんが年貢を免除してくれたことに感謝したもので、子どもが少なくなった現在でも、でこさんの山車を担いで家々を周り存続させています。

現状と課題

他地区と同様に、少子高齢化が進んでおり、課題が生じています。農業に関しては、後継者不足です。共同経営組織や専業農家に頼るなど、地区全体で農業の未来を考えていく必要があります。また、空き家が増えており、防犯上の問題や近所への倒壊の恐れなど、対策が課題です。高齢世帯が多くなる中、いざという時に助け合えるように、自助・共助の訓練を重ねていきます。さらには、商店が少ないことへの対策、公共交通の必要性があり、高齢者になっても暮らしやすい地域にしていくことが必要と考えます。

地区の子どもたちには、登下校の見守りやあいさつ運動を行っています。学校と連携しながら、さまざまな体験をさせ、遊び・学べる環境づくりが必要です。

地域の将来像（ビジョン）

～ふれあい・折りあい・支えあい～

「あい」の力で、いきいき元気に「育つ」中原

中原まちづくり協議会のメインイベント「中原グルメフェスティバル」を中心に、中原の「農業」と「食」をみんなで盛り上げて（育てて）いくこと、中原地区の人々が、作物を育て、自然を愛で、笑って元気に暮らせることを将来像としています。

ふれあい・折りあい・支えあい、三つの「あい」を育み、歳を重ねても、健康で生きがいをもって、安心して暮らしています。そして、中原の将来をつなぐのは、子どもたちの「育ち」です。各世代が、子どもたちに中原の自然・文化・味を伝える活動を行い、地域のみんなで子どもを見守り育てています。

地域のめざす姿

- (1) 中原の自慢を次世代につなぐまち
- (2) 体力づくりで笑顔と元気あふれるまち
- (3) 会話とふれあいが弾むまち
- (4) 安全で安心して暮らせるまち
- (5) 自然と人をいたわるまち



32 米ノ庄住民協議会

米ノ庄地区は、三雲管内の南部に位置し、松崎浦町と六軒町により他の三雲管内の3地区と隣接していない地区です。二級河川である三渡川・岩内川・中川が流れ、国道42号が南北に走っています。

地区の名所・旧跡としては、旧街道沿いの屋号看板・市場庄のまちなみ、忘れ井戸・久米町の舟木屋の長屋門などがあげられます。

現状と課題

米ノ庄住民協議会は、久米、上久米、こもれびの園、市場庄、中ノ庄、上ノ庄の6つの自治会を中心に、各種団体や組織により構成されています。総務部会・福祉部会・健康部会・教育文化部会・防災部会があり、地区のほぼ中央に位置する米ノ庄公民館を拠点に、各部会においてさまざまな地域活動を展開しています。

米ノ庄地区（特に久米町、市場庄町）は、台風などによる大雨の被害が甚大で、二級河川である中川への強制排水施設の設置が望まれています。

また、農業が盛んな地域ではありますが、後継者不足に悩まされています。

地域の将来像（ビジョン）

『優しさあふれるまち米ノ庄』

米ノ庄住民協議会の地域計画を策定し、“優しさあふれるまちづくり”の実現に向けて取り組んでいきます。



地域のめざす姿

(1) あいさつのある元気なまち

地域における少子高齢化が進む中、地域の各種組織間の連携強化を図るとともに、あいさつ運動を強化し、活力あるまちづくりを進めていきます。

(2) 安全・安心なまち

子どもたちに対する交通安全指導の一環として見守り隊を結成しており、各種団体や組織による危険個所の指導・点検を進めています。また、防災担当組織を設置し、避難所運営マニュアルの作成や防災訓練の実施など、住民への防災意識の普及・啓発に努め、総住民参加による安全なまちづくりを進めていきます。

(3) 自然を大切にする優しいまち

環境保全組合も組織され、田園と住宅地域とが仕分けされている地域です。旧参宮街道なども通っており、歴史のあるまちでもあります。これらの自然や歴史・文化を維持し、後世に引き継ぐことによるまちづくりを進めていきます。

(4) 交流を深めるまち

地区全域の住民相互のコミュニケーションを図るため、幼児から高齢者までの三世代が楽しめる事業を行っていきます。住民協議会が核となり、住民による住民のための事業を展開し、交流を深めるまちづくりを進めていきます。

33 天白まちづくり協議会

本地域は松阪市北部に位置し、国道23号を挟み東西に広がり、東側は天白海岸に面しており、西側は中勢バイパスを擁しています。

また、旧三雲の中心部に位置し、海と田園がある自然豊かな地域です。

天白地区は、曾原新田、喜多村新田、南曾原、曾原浜、小津、中道、曾原西、茶屋、曾原中林、中林、月本の計11自治会があります。

天白まちづくり協議会は平成21年4月1日に発足し、11自治会のほか、老人会、天白地区福祉会、南幼児園PTA、天白小PTA、消防団、民生児童委員協議会、天白公民館、青少年健全育成協議会、身体障害者福祉会、北部商工会、食生活改善推進協議会、天白マリン倶楽部などで構成されており、“地域でできることは地域で”をモットーに地域の住民一人ひとりが連帯・協力し“安心で安全”“住みよいまちづくり”をめざし、さまざまな活動を行っています。

現状と課題

地区および、地区別人口、年齢別推移のとおり、各年代層の比率推移の変化は無いが、平成22年から各年代層の人口が増加しています。

現在、新興住宅が増築され新しい入居者が明らかに増加し、旧来よりの住居の比率が年々減少している傾向があります。このことより、新しい住民の方と旧住民の方との親密な交流が求められています。

当地域は伊勢湾に臨み、海拔0~3メートル地域であり、いつ発生してもおかしくないと言われている南海トラフ地震によって確実に津波の被害が想定されます。地域の方1人でも犠牲者を出さないための施策が必要と思います。

地区内にカン・ビン・コンビニの弁当や袋などのごみが散乱し、環境も美観も損なわれています。依然としてごみ問題があり、全住民の参加によるクリーン作戦の実行が望まれます。また、カーブミラーが数多く設置されており、ミラー汚れによる交通災害を防止する必要があると思います。

地域の将来像（ビジョン）

『明るく暮らしやすい天白』



地域のめざす姿

(1) 事故や災害を無くし互いに支えあうまち

- 住民とともに防災・安全に強いまちづくりをめざします。

(2) 老若男女がいきいきと健やかに過ごせるまち

- 弱者に理解ある健康でいきいきしたまちづくりをめざします。

(3) 自然を愛で心豊かなまち

- 恵まれた地域環境を大切に、循環型環境改善に強いまちづくりをめざします。

(4) 地域の伝統文化を絶やさず後世に伝えるまち

- 郷土の歴史を大切に誇れるまちづくりをめざします。

34 鵠まちづくり協議会

鵠地区は松阪市の北東部に位置しています。北は一級河川の雲出川、南に二級河川の碧川に囲まれ、西は国道23号が一部縦断しており、東は伊勢湾に面した平坦な田園風景が広がる自然豊かなまちです。

また、五主海岸では潮干狩り、星合町波氏(はて)神社は七夕伝説の神社で、毎年8月7日の鵠七夕まつりには市内外からの多くの人々が訪れにぎわいのある地域です。

現状と課題

- 今後ますます少子高齢化が進むことが予想され、子育て支援や高齢者福祉の充実が望まれます。
- 当地域は伊勢湾に臨み、海拔0~2メートル地帯であることから地震による津波や風水害の影響が懸念されます。避難訓練などを通じて、より一層常日頃から防災意識を高める必要があります。
- 農業については稲作を中心とした地域ですが、農業の担い手不足が深刻な問題となっています。次世代を担う人材育成が不可欠です。
- 情報化社会の中で、住民同士のコミュニケーションが希薄になっています。活発で楽しいイベントなどで交流を深める必要があります。
- モノがあふれる時代にあって、上流から流れ来る河川ごみやポイ捨てなど、依然としてごみ問題がクローズアップされています。全住民参加による環境クリーン活動が不可欠です。

地域の将来像 (ビジョン)

『翔くまち ^{かさざぎ} “鵠”』

伊勢湾に臨む海岸平野に田園風景が広がっており、五主海岸・雲出川・碧川河口には野鳥が飛び交い、春には満開の河津桜遊歩道を楽しめる自然豊かな地域です。地域住民が連携して子どもたちを豊かに育み、お互いが支え合って安全で安心して暮らせるまちづくりをめざします。

地域のめざす姿

(1) 豊かな自然を育むまち 《環境保全部会》

花と緑があふれる豊かな自然、“活気ある心豊かなまち”にします。

(2) 若者が夢と希望を抱くまち 《青少年育成部会》

世代を超えた交流を通じて、次世代を担う若者が育つ“魅力あふれるまち”にします。

(3) 安心して暮らせる安全なまち 《防災防犯部会》

防災防犯の意識を高め、ともに助け合う人間関係をつくり、“災害に強く、犯罪のないまち”にします。

(4) 健やかで笑顔あふれる元気なまち 《健康福祉部会》

誰もが気軽に集える場所を確保し、三世代交流を進め、“健康で生きがいのあるまち”にします。

(5) 歴史を伝え文化を創るまち 《歴史文化部会》

地域の伝統文化を大切に守り後世に伝えるとともに、新しい文化を発掘し、“誰もが誇れるまち”にします。



35 おのえ住民協議会

小野江地区は、松阪市の最北部に位置しています。北は一級河川雲出川を隔て津市に、東西には国道23号と国道23号中勢バイパスが走っています。また、中央にはお伊勢参りとして栄えた旧伊勢街道、街道沿いに「北海道の名付け親」松浦武四郎の生家があります。近年では小規模開発によるアパート、住宅団地が、また国道、県道沿いには店舗、事務所、倉庫などが形成されていますが、地域的には田畑に囲まれた自然豊かなまちです。

現状と課題

小野江地区には、小学校1校と幼稚園が1園あります。少子高齢化が進んでいますが、人口は平成22年度と比較すると30%近い増となっています。子ども・高齢者が安全で安心して暮らせるまちづくりが必要です。

当地区は田園が広がる平坦地に各集落が点在し、神社・仏閣が祭られています。さらに、偉人松浦武四郎の誕生地であるとともに江戸時代におかげ参りの旅人でにぎわった伊勢街道のなごりが残る歴史あるまちです。このような地域の特性を生かして、歴史と文化を守り、いかに発展させていくかが課題となっています。

地域の将来像（ビジョン）

- 北海道の名付け親「松浦武四郎」誕生地『おのえ』（自然豊かな歴史あるまちの維持・発展）
- だれとでも気軽にあいさつができ、高齢者にもやさしいふれあいのあるまち『おのえ』
- みんなが安全で安心して暮らせるまち『おのえ』

地域のめざす姿

- (1) 自然豊かな歴史のあるまち
- (2) 誰とでも気軽に挨拶ができ、活気あふれる明るいまち
- (3) 高齢者にもやさしい、ふれあい豊かなまち
- (4) 安全で、安心して暮らせるまち



36 有間野住民協議会

有間野地区は、松阪市街地から国道166号を25キロ余りの中山間地で、櫛田川右岸に沿って5つの集落が点在する小規模の地域です。

集落は、森林が多く耕地面積は少ないが、豊富な水で水田中心に農業が営まれています。地域は過去にも災害が少なく安全・安心な環境、美しい景観を保持する穏やかな地域です。

現状と課題

有間野地区の人口は351人で、10年前より20%減少している過疎化が著しい地域です。

小学校がなくなり地域住民の交流の場は少し減ったものの、住民協議会の活動がそれをカバーしており、今では、三世代交流、健康、安全・安心な地域づくりをめざして活動を行っています。また、地域の歴史・文化の継承のためのマップづくりに着手しており、今後が楽しみでもあります。ただ、獣害被害は深刻で、営農意欲をなくしている農家も多く、今後の駆除や共生（森づくり）が課題といえます。

地域の将来像（ビジョン）

『しあわせをどんどんシェア（共有）できる地域』

住民が大切にしている「助け合い」「おすそ分け」「お持ちより」「分かち合い」のところで、安心安全に暮らせる地域づくりに取り組みます。

地域のめざす姿

(1) 防災・防犯活動の充実で安全・安心に暮らせる地域

地域見守り隊、交通安全、防災対策

(2) みんなが健康で明るく楽しい地域

健康づくり、元気な高齢者、笑顔の地域づくり

(3) 世代を超えた交流・連携ができる地域

三世代交流イベント、人の輪づくり

(4) 発展する姿と情報を発信・伝達できる地域

地域の情報発信、立ち寄りたくなる地域づくり

(5) 自然環境を守り美しい地域

豊富な水環境の整備、ごみのない美しい地域づくり



37 粥見住民協議会

17自治会により構成される当地区は、地域の中央に清流櫛田川が流れ、国道166号と同368号が交わる交通の要所です。地場産業である松阪茶は「深蒸煎茶」として農林水産大臣賞を受賞し、生産も盛んに行われています。教育の面では、平成11年に全国初の連携型中高一貫教育を導入した県立飯南高等学校があり、現在もその先駆けとして歩んでいます。そのほか、3つの福祉施設との災害協定を結び有事の協力体制を確立しています。

近年、地区の高齢化と人口流出が進み、地域コミュニティの維持が困難になりつつある時期を迎えています。

現状と課題

- 高齢化対策として、自治会の組織力強化やふれあいサロンを充実させること
- 文化財マップづくりとアピール、耕作放棄地の活用、伝統食の復活に取り組んでいくこと
- 空き家バンク、伝統行事の伝承、防災の備えなどに取り組んでいくこと
- 構成する3つの区会の意思疎通を図っていくこと
- 少子高齢化抑制の啓発として「あんよスタンド」(木製の赤ちゃん足形)贈呈を促進していくこと

地域の将来像 (ビジョン)

～^{ふるき}地域コミュニティの維持と故を活かした地域の創生～

地域のめざす姿

(1) 地域の力のアップ

ふれあいサロン支援事業、民具製作伝承

(2) 原点の大切さを認識し、活かす

井尻遺跡啓発、荒廃農地対策、伝統食の復活、地域の美化

(3) 人が住んで「生」を実感できるまちづくり

伝統行事の継承、安全・安心の地域づくり、誰もが意識する地域防災啓発・訓練

(4) 地域にあるものを探す

昔の遊び、薬草マップ

(5) 喜びの分かち合い

あんよスタンドのプレゼントや野上がり行事を通じ会員同士で喜びを分かち合う

(6) 活動拠点の設立

老若男女、業種にかかわらず気軽に訪れることのできる単独の施設を構築



38 仁柿住民協議会

仁柿地区を通る伊勢本街道は、安土桃山時代から長谷寺と伊勢神宮を結ぶ参詣道として、また、古来丹生の水銀を大和に運ぶ道として栄えた歴史街道です。仁柿峠には、昭和初期まで旅籠が数件営業をしていましたが、国道368号の整備や交通機関の発達により衰退しました。少子高齢化の時代となり、小学校の統廃合や人口減で過疎化が進んでいるのが現状です。

古道ブームにより、伊勢本街道を歩くハイカーが多くなり、荒れている街道を整備し保全する活動を展開しています。また、街道を訪れた人々の記憶に残るまちなみにしたいとの思いから、屋号看板を掲げる事業なども行なっています。

現状と課題

仁柿地区の人口約560人中65歳以上人口は43%、独居老人世帯は20%（5軒に1軒）、小学生13人と高齢化が著しい地域ですが、市街地まで「それほど」遠くないので、行事やイベントなどには近くに住む親戚縁者が集まる地域である。

林業、農業が中心の地区で、農地面積は相当あるものの、高齢化、後継者不足による耕作放棄地が多くなっており、獣害の要因や居住地への影響も懸念されています。

地域の将来像（ビジョン）

『四季に映える山懐、満天の星空、岩を噛むせせらぎ』

この「ふるさと」とともに語り、つくり、伝えるため、自分たちで行動する仁柿をめざします。

地域のめざす姿

(1) 人の交流・個人が健康を考え参加する地域

- 自助・互助・共助の役割を認識し、自ら健康について考える地域をめざします。

(2) 地域資源の共有化と集う場の作り出し～活用策拡大する地域

- 帰省者・事業参加者との交流の場を検討します。
- 伊勢本街道のあり方を検討します。

(3) 自主的な防災意識の定着する地域

- 防犯・防火を基軸にご近所や地域で交流し、自主防災意識の定着をめざします。

(4) 仁柿の地域保全などの検討と実施

- 休耕地、荒廃農地の活用と生產品の活用方法や、販路拡大などを検討します。

(5) 住民協議会の活動定着

- 仁柿の魅力を内外に発信するとともに、地区外に住む仁柿出身者との交流行事を行います。



39 柿野住民協議会

柿野地域は、横野地区・深野地区の15自治会で構成しており、松阪市の西部に位置し、櫛田川、深野川、仁柿川が流れ自然豊かな地域です。昭和初期まで農林業が盛んな地域であったため、1戸に1頭の役牛を飼育している農家が多く、白猪山麓の抜群の環境の中で松阪牛が育つ故郷となっています。全国棚田百選の「深野だんだん田」があり、文化財や伝統工芸品、史跡、名勝地のある豊かな地域です。

現状と課題

人家が点在しているので独居老人宅の安否確認が難しいことがあります。また、耕作放棄農地の活用や獣害から守る工夫が必要です。歴史深い棚田、深野和紙、松阪牛を学ぶまちづくりが求められています。

地域の将来像（ビジョン）

『みんなが安全で、安心して暮らせるまち、柿野』

～ 夢のある柿野、住んでいて楽しい柿野、いつまでも住みたい柿野 ～

地域のめざす姿

(1) 健康で安心して暮らせるまち

- 健やかに暮らせ、交通事故のない安全なまちづくり
- 自主防災で安心して外出ができるまちづくり

(2) 福祉と環境美化のまち

- 高齢者の安否や美化意識の高揚

(3) 農地を獣害から守り荒廃農地をなくすまち

- 獣害対策や遊休、荒廃農地対策、後継者問題を検討

(4) 気軽にスポーツが楽しめ、参加交流ができるまち

- 誰もが軽スポーツを楽しめ、参加交流できるまちづくり
- 棚田、深野和紙、松阪牛など歴史文化が学べるまち



40 宮前まちづくり協議会

旧飯高町の東口に位置し、櫛田川と支流に沿って集落が点在する地域で、9割が山林となっています。道の駅や和歌山街道の珍峠ウォーキングコース、水屋神社などの観光資源も豊富で内外から年間35万人の観光客が訪れています。地域は8自治会で構成しており、若いグループが地域全体の祭りやイベントを企画運営する体制ができています。

現状と課題

過疎化、少子高齢化を認識する中で、まだまだ参加者が少ないまちづくり事業を盛り上げます。若者が定住できる基幹産業や総合病院、大型店、教育施設などの誘致が必需となっていますが、自然は確保されているものの人口減少に歯止めが立たないのが実情です。しかし、災害はいつ襲ってくるかわからないので、防災対策の強化を望む声があります。少しずつ薄れていく絆を地域力で残していきたい伝統行事や文化行事があります。後継者不足で続けていくことが難しくなってきました。

地域の将来像（ビジョン）

『いつまでも住み続けたいまち宮前』

地域のめざす姿

(1) 自立したまちづくり協議会の確立

老人福祉センターの指定管理委託の受託
若者女性の活動促進

(2) 活気あふれる元気なまちづくり

観光振興策や特産品の販路拡大や会社の設立

(3) 安全で安心して暮らせるまちづくり

地震、風水害対策や防犯防火など関係組織が連携

(4) 地域の絆を大切にすまちづくり

過疎化、高齢化で働き世代との絆が薄れていく中で、世代間交流事業を展開

(5) 恵まれた自然環境を守り続けるまちづくり

河川の水質悪化、農林業の荒廃、不法投棄、空き家などが環境阻害
里山の魅力を未来に引き継ぐための美化運動や水辺の整備



41 川俣地区住民協議会

川俣地区は、旧飯高町の中央に位置し、櫛田川と国道166号に沿って開けた山間地です。

旧和歌山街道の七日市は、本陣があり参勤交代の宿場まちとして栄えました。昭和25年をピークに人口減少が進み、少子高齢化が加速しています。しかし、名所旧跡などの文化財や伝承が多くあり、地区出身の偉人の顕彰にも力を入れています。

現状と課題

人口減少により、自治運営が難しくなり、農林業の担い手不足から荒廃農地が増えています。国道の未整備や空き家が増え、倒壊の危険や美観の悪化を招いています。医療機関が少なく高齢者は健康に不安を抱えています。少子化で保育園、学校がなくなり、伝統行事が縮小または消滅していき、地域の交流の場が少なくなっています。

地域の将来像（ビジョン）

『助け合い、励ましあい、共に生きる“ふるさと川俣”』

地域のめざす姿

(1) 美しい環境を守り、災害に強い“ふるさと川俣”

人口減少、高齢化が進む中、住民が力を合わせて美しい自然の保全に努め、後世に引き継いでいきます。

(2) 健康でいきいきとした住みよい“ふるさと川俣”

高齢化する住民の健康を支援します。

(3) 歴史の香る“ふるさと川俣”

残していきたい伝統文化や行事が色濃くあり、それを生かした地域づくり活動につなげていきます。

(4) 地域の特色を生かした活力ある“ふるさと川俣”

伝統行事や祭りを通じて、地域の良さを見つめ直す機会とし、農林業の後継者不足と荒廃農地の保全を検討します。

(5) 地域の将来をみんなで考え、発信する“ふるさと川俣”

川俣の将来について、さまざまな機会を捉えて話し合い協議を重ねます。川俣の活動と現状を内外に発信して、感想や提言を受信します。



42 森を考える会

森地域は、96%が山林で1000m級の山々に囲まれた山間地域です。少子高齢化の過疎化が深刻な悩みとなっていますが、これまでに、県立公園奥香肌峡の観光資源を生かした保養センターの建設や前進の都市交流センターのスマールがオープンしたり、蓮ダムの建設などの事業で活気あふれる時期もありました。しかし、これまで養ってきた住民同士の信頼関係や絆で危機を乗り越えようとしています。

昭和60年に自立した地域づくりをめざして、「森を考える会」を設立しました。平成19年に住民協議会制度ができ、そのまま移行して実に30年の歴史があります。

現状と課題

平成20年に3小学校が統合されましたが、その学校も人数が減り先行きが見えない状況となっていて、急速に少子高齢化で人口減少が進んでいます。国道の改良が進みつつあります、公共交通機関は無く、市街地まで1時間以上かかり、僻地の解消には至っていません。

空き家バンク事業に期待はするものの、子育て世代の移住を促進する要素は少なく、田舎離れは進んでいます。リニューアルオープンしたスマールが新たな雇用の場となることを期待しています。

地域の将来像（ビジョン）

『自分たちの地域は自分たちでつくる』

地域のめざす姿

- (1) 笑顔あふれる地域をめざします
- (2) 住民の生きがいを大切にします
- (3) 安全で安心して暮らせる地域をめざします
- (4) 自分たちの地域は自分たちが創ることをめざします



43 波瀬むらづくり協議会

波瀬地区は、松阪市の西端に位置し、奈良県境に接する山間地域です。吉野林業の流れをくむ良質材の産地として知られています。人口減少が著しい過疎のまちですが、往時は大和と伊勢を結ぶ和歌山街道が通り、参勤交代の本陣などのまちなみが保存されています。現在は、林業の衰退と少子高齢化が進んでいますが、受け継がれてきた文化や自然の恵みにより、郷土料理や動植物の四季折々の表情があります。

昭和56年に地域の課題解決に向け「波瀬地域開発推進協議会」を設立、その後平成12年に自立をめざした前身の「波瀬むらづくり協議会」に改称して活動をしています。

現状と課題

- 波瀬小を活用した体験学習の取組
- 波瀬夏まつりの開催
- 環境美化運動や防災訓練の実施
- 遊休農地の再生と地域特産品の掘り起こし
- 住民がいきいきと楽しめる文化活動の取組
- 住民の福祉と健康づくり
- 大学生との連携



はぜ
波瀬むらづくり協議会

地域の将来像（ビジョン）

『人の寄るむらづくり』

地域のめざす姿

(1) 「生きるを学ぶ」体験学習で元気なむらづくり

休校舎を「波瀬ゆり館」と名づけて「生きるを学ぶ」体験学習の拠点として活用していきます。

(2) 「自然環境を守り、地域防災体制の強化」で安全安心なむらづくり

風情ある景観保全や防災意識の高揚に努めます。

(3) 「地域コミュニティ活動と多様な交流」で絆が生まれるむらづくり

祭りや行事で交流を図り、波瀬を訪れやすくし、ホームページなどで発信していきます。

(4) 「地域福祉の推進と健康づくり」で笑顔があふれるむらづくり

健康づくり行事の開催や長寿を祝う会、配食サービスを行ないます。また、交通弱者のための「コミュニティたかみ」の運行に努めます。